

第3回高知港海岸景観・利便性等検討会

議 事 概 要

I. 開催概要

日 時 : 平成29年12月14日(木) 10:30~12:00

場 所 : サウスブリーズホテル 2階 アニエス

出席者 : 以下のとおり

【委 員】

磯部 雅彦 (高知工科大学 学長)

重山 陽一郎 (高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻 教授)

原 忠 (高知大学 教育研究部 自然科学系 農学部門 教授)

大倉 美知子 (カラーオフィス PERSONAL 代表)

【関 係 者】

齋藤 輝彦 (高知県 土木部 港湾振興監) (代理出席)

村田 三郎 (高知市 防災対策部 地域防災推進課長) (代理出席)

高橋 尚裕 (高知市 都市建設部 建設技術・都市再生担当理事) (代理出席)

今西 剛也 (高知市 商工観光部 副部長) (代理出席)

宮島 正悟 (国土交通省 四国地方整備局 港湾空港部長)

三野 真治 (国土交通省 四国地方整備局 高松港湾空港技術調査事務所長)

Ⅱ．議事概要

1. アンケート調査結果(種崎千松公園)の概要について

○ 資料 2で整理したアンケート調査結果の概要について助言をいただいた。

検討会における主な助言、意見は以下のとおり。

- ・ 景観資源としての松林や砂浜は、とても大切にされている。しかし、アンケート結果では思ったほど人が集まっていないようである。千松公園には、潜在的なポテンシャルはあるため、人がたくさん集まる工夫や配慮が大切である。
- ・ 避難する際に砂浜から防潮堤を上り、また下るといった心理的負担を軽減する工夫が必要である。
- ・ 住民に楽しみを提供できる工夫が大切である。例えば、防潮堤天端面を人が歩くことができ、浦戸大橋の方まで繋ぐことで、避難だけでなく龍馬マラソンのコースにも使えるようになる。
- ・ 防災に関する要望・期待が多かったことへの対応として、三重防護にご理解を得つつ、早期の津波防護機能確保に配慮していかなければならない。
- ・ 防潮堤がすぐに壊れるのではないかと不安をもっている人がいるようである。防潮堤には避難時間を稼ぐなどの減災に関する効果があることの理解を深めてもらうことが大切である。これを今後も継続的に説明していくことが必要である。
- ・ 避難に関する認知度において、「住宅街の中の道が分かりにくい」との回答があり、近隣住民の方の比率が高くなっている。これは近隣の住民の方は自分が住んでいるところの道路網などが複雑であることを認識していて、その意味が含まれていると推測され、公園利用者や高知市民の分かりにくいとは少し異なるかもしれない。
- ・ 現状の千松公園の課題としては、見通しが悪く怖い、夜の照明が少ないことが上げられている。これは、高い防潮堤ができると日中でも陰になり、閉鎖的になることを治安上も含めて危惧しているものと考えられるため、照明などの対応も必要である。
- ・ 防潮堤に蓄光素材を埋めると方角の頼りになり、避難する方向が分かりやすくなるのではないかと。
- ・ 高齢者の目には、海からの反射などがとても辛い。そのため、圧迫感の軽減に加えて、防潮堤の色彩などについても配慮が必要である。
- ・ 近隣住民でさえ避難ビルの存在を知っていても避難経路の認知度が低い結果となっていることについては、関係者が連携して対応する必要がある。
- ・ 桂浜では、年間約 70 万人が訪れている。避難経路等を知らない人が、千松公園よりも多く訪れて

いるため、しっかりとした対応が必要である。

- ・ アンケート結果には、本検討会の目的とは少し異なる範囲の意見もあった。関係者が集まる良い機会でもあるため、引き続き、関係者が連携していくことが大切である。

2. アンケート調査結果を踏まえた景観・利便性等の方向性について

- 資料 3で整理した景観・利便性等の方向性について助言をいただいた。
検討会における主な助言・意見は以下のとおり。

- ・ 高い防潮堤が整備されると防潮堤背後からは海が見えなくなり、高い防潮堤が安心材料となることで、避難しなくなることも考えられる。そのため、災害や避難に関する情報を提供する工夫が必要である。

3. 海岸保全施設の構造形式(素案)の提案について

- 資料 4で整理した構造形式(素案)の提案について助言をいただいた。
検討会における主な助言・意見は以下のとおり。

- ・ 防災・環境・利用面、港湾行政のグリーン化の面からも提案する構造形式(素案)は良い。
- ・ コスト面にも配慮しながらスピード感をもった整備を行う必要がある。そのため、技術検討会には、技術的観点からの検討と連携をお願いしたい。
- ・ 海浜への来訪者の堤防背後からのアクセスを考えると盛土構造が良い。ただ、勾配の強弱や変化(アンジュレーション)で印象が変わるので注意が必要である。
- ・ 前面砂浜側で堤体確保が難しい場合は、背後松林側に拡幅することになる。その場合は、施設管理者と十分調整する必要がある。
- ・ 自立式構造は、単純な構造に見えるが、しっかり守られている印象を与える工夫も必要である。
- ・ 天端幅が広い場合、発災後の復旧活動の他、通常時のアクセスや眺望機能として有効である。通常時と発災時の利用に分けた機能確保の視点も大切である。
- ・ 自立式構造の場合、掘削後に鋼管矢板を打設し、埋め戻すことになると考えられるが、景観の観点から埋め戻す高さを上げることで壁面を小さく見せることもできる。そのため、技術検討会には、盛土高さが変化することも考慮し、技術的観点からの検討と連携をお願いしたい。
- ・ 盛土式構造と自立式構造の擦り付け区間では、連続性も踏まえて検討することが大切である。
- ・ 擦り付け区間では、様々な盛土の擦り付け方が生じる。そのため、技術検討会には、擦り付け方が変化することも考慮し、技術的観点からの検討と連携をお願いしたい。

- ・ 津波の周期は長いため、一般的な防潮堤の設計には問題になることは少ないが、隅角部においては、短い周期の津波に対して配慮が必要である。そのため、技術検討会には、隅角部に対する技術的観点からの検討と連携をお願いしたい。
- ・ 壁式構造でも天端面を歩けるように配慮してもらいたい。そのため、技術検討会には、上部構造に遊歩道を設けた場合の技術的観点からの検討と連携をお願いしたい。また、千松公園と砂浜の動線を確保するための工夫が必要と言える。

以上